

海外コンポで
ジャズを聴く

Overseas Component
Harbeth
From U.K.



ご存じのとおり、プリティッシュ・サウンドを代表するスピーカー・ブランドだ。
しかし、ハーベスには、もう一つ独特のサウンド・イメージがある。それは、
色づけない自然な音であり、特に人の声、ボーカルの実に自然な表情を意味している。

Report: 石田善之



ハーベスという、「プリティッシュ・サウンド」と言われる英国を代表するスピーカー・ブランドであり、ベテランのオーディオファンはMonitor HLシリーズや、CD時代に入ってからHL Compactが大変なヒットモデルだったことを思い出すだろう。

ハーベスはH・ダッドリー・ハーウッドにより1977年に設立されている。彼は英国国营放送であるBBCの音響研究所のメンバーであり、数々のBBCモニタースピーカーの設計を手がけてきた経験を基に、BBCを退職して自社ブランドのハーベスを設立したのである。ハーベスという名前の由来も、自身のハーウッドと妻のエリザベスのベスを合成したものだという。独立後も、もちろんBBCモニターの製造やメンテナンスを続けるかわら、ハイファイマーケットに参入した、それが1977年ということになる。

その後、1987年にはハーウッドからアラン・ショウへと引き継がれたが、伝統を尊重しつつ新しいサウンドへと進展、拡大が図られていく。

ハーベスという独特のサウンドイメージを想像する。それは音の色づけを抑えた自然感であり、特に人の声、ボーカルのより自然な感じを意味している。ここ数年来、製品の動きが途絶えていたのだが、昨年から新製品が一挙に3モデル登場した。

ルネ・マリーとグラディ・テイト、それぞれの声の魅力を存分に聴かせてくれる

HL-P3ES-2は最も小型の2ウェイ機である。ほとんどのスピーカーメーカーがこうしたコンパクトなスタイルで製品を登場させているが、もとを辿るとBBCモニターのLS3/5Aの存在に行き着く。ハーベスでも1988年頃から3/5Aを登場させているが、直後の1990年に、ほぼ同サイズで同形状ながら一歩先を見越して、さらにハーベスらしさを加えたHL-P3を出している。1995年には基本的なサイズやユニット構成は同じP3ESへ

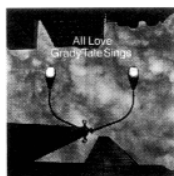
と引き継がれ、バッフルを厚くしたりツイーターをハードドーム化するなど、小型であることを維持しつつ、特に人の声の再現性を意識した改良を施している。クロスオーバーネットワーク回路などはそのまま継承しているようである。

密閉型で、能率も欲張らず83dBである。その結果かなりローエンドまで周波数レンジも拡大されている。これも3/5A譲りだが、本機のドライバーは110mm径ポリプロピレンコーン・ウーハーで、25mm径アルミボイスコイルを持つ。フレームはダイカスト製で、エッジはラバー系だが低損失材を使っている。ツイーターは19mmアルミドーム、ちなみに3/5Aはソフトドームであった。本機はハードドーム化されたダイヤフラムだが、エッジには合成樹脂を用い金属振動板が持つQを程よくコントロールし、さらに磁気回路には磁性流体を使うなど、高耐圧化されている。P3ES-2では外観的にもエンクロージャーのエッジをラウンド化させるなどのきめ細かな変化も見られる。

サウンドは、ニアフィールドモニターという背景があるだけに、小音量時の音のバランスや音像感が見事である。ボーカルの音像も自然で中央にきれいにまとまり、女性ボーカルのルネ・マリーや男性ボーカルのグラディ・テイトなどそれぞれの声の魅力を存分に聴かせる。グラディ・テイトのバックのベースはソースとしてややゆったりとした雰囲気録音されているが、ここでは決してダレることなく、密閉型ならではの質の良さであろうか、輪郭感をキリリとさせ、サイズに見合わないくらいのローエンドの低さも表現されている。また、『ブラック・ダリア』での冒頭のショッキングなエネルギー感も、小型とはいえバランス感が整っているだけに、さすがに、しっかりと聴かせる。あまり大きくはない空間で、比較的近距离で聴くにはもってこいのバランスとスペースファクターであろう。

次はHLCompact7ES-2だが、ハーベスはウーハーの

DISC for TRIAL



【SACD】オール・ラブ〜グラディ・テイト・シングス〜(ヴィレッジレコード: Eighty-Eight's VRGL-8802)



【CD】ライブ・アット・ジャズ・スタンダード/ルネ・マリー(ディスクユニオン: Max Jazz/DIW DIW-463)



【SACD】ブラック・ダリア/ボブ・ベルデン(東芝EMI: Blue Note TOGP-15006)

『グラディ・テイト』は、名ドラマーの彼がその洪い歌声を聴かせてくれるバラード集。SACDで聴く声からは、彼の温もりまで伝わってくるようだ。『ルネ・マリー』のCDは、48歳の苦労人ルネの3作目。ピアノ・トリオをバックにスキャットやバラードを披露するライブ盤だ。『ボブ・ベルデン』は65人編成のオーケストラを指揮した大作。最新発売のSACD盤で、その壮大なスケールを堪能する。

振動板素材に常に前向きに取り組んでいる。ベクストレーン、ポリプロピレン、新しい高分子系のTPXなどが検討されてきたが、本機にはRADIALコーンと名付けた、ポリプロピレンにアルミパウダーをブレンドしたものが使われ、しかもダイヤフラムの内周ほど剛性が高められるような配合がされている。ツイーターは25mmアルミドームで、ここでも磁性流体を組合せ高耐圧化を図っている。

また、ハーベス・サウンドの自然感にはエンクロージャーが大きな役割を持っている。キャビネットの素材はあまり肉厚のあるものを用いるのではなく、素材の持つ響きを上手に活用して、音の自然な減衰感を引き出している。従って全体に剛性の高い設計ということではなく、フロントバッフルやリアバッフルは取り外しが可能で、これは組み立てやメンテナンス以上に響きのコントロール的な意味合いが強いに思われる。フロントにポートを持つバスレフ型である。

中低域から低域にかけてのエネルギーを十分に持たせ、それに見合った形で高域もしっかりと聴かせようという設計だけに、レンジの広い音の印象である。と同時に音の切れ味やシャープネスなど、さらに、伸びやかでゆったりとした響き感も両立させている。今回

はボブ・ベルデンの『ブラック・ダリア』という壮大なビッグ・バンドのアルバムを中心に聴いたのだが、そのスケール感が存分に表現される。トランペットやアルトサックスのソロの表情が大変に美しく、動きなども余すところなく伝える。P3ES-2がやや引き締まって彫りの深さを感じさせたのに対して、こちらはかなりゆとりと大らかさ、のびやかさがあり、ハーベスに温もり感などを求めたいというユーザーにはぴったりのシステムということができそうである。

この強調感のないフラット・サウンドを、味気ないと解釈するか、忠実と解釈するか

3機種目のMastering Monitor 30はサイズ的には7ES-2よりひと回りコンパクトで、同じ20cmのRADIALコンボジットコーンを採用したウーハー・ユニットは共通と見てよさそうだが、ツイーターはSEAS社のソフトドームEXCELが使われ、ボイスコイルは銀線を使っているようだ。また、7ES-2では表面をチーク材で仕上げ、スピーカー・ターミナルはバイワイヤリング対応としていたが、本機は色がグレイ、入力もシングルワイヤーである。7ES-2のホームユース・ハイファイ仕様に対して、こちらはスタジオモニターということ



HL-P3ES-2 ¥198,000(ペア)

●型式:2ウェイ2スピーカー・密閉型、使用ユニット:11cmコーン型ウーハー(ポリプロピレン・コーン)、1.9cmドーム型ツイーター(フェロケールド・アルミニウム・ハードドーム)、周波数特性:75Hz~20kHz ±3dB、クロスオーバー周波数:3.2kHz(18dB/oct.)、出力音圧レベル:83dB/W/m、インピーダンス:6Ω、外形寸法:188×305×198(WHD)mm、質量:5.9kg

Mastering Monitor 30 ¥400,000(ペア)

●型式:2ウェイ2スピーカー・バスレフ型、使用ユニット:20cmコーン型ウーハー(RADIAL重合コンボジット・コーン)、2.5cmドーム型ツイーター(Sonotexソフトドーム)、周波数特性:50Hz~20kHz ±3dB、クロスオーバー周波数:2.8kHz(18dB/oct.)、最大入力:100W、出力音圧レベル:85dB/W/m、インピーダンス:8Ω、推奨アンプ出力:50~150W、外形寸法:279×460×277(WHD)mm、質量:12kg



ろであろうか、使われている20cmウーハー・ユニットも左右のペアマッチングなどがより厳密に行われているようだ。ただ、左右対称ではなく、フロントにあるバスレフポートはともに左上に位置している。

フロント側もリア側もバツフルは12本のビスで固定され、着脱式ということも共通である。フロントグリルは今回試聴している3機種共に素材はジャージで、フロントバツフルの溝に埋め込むように密着度の高いものである。ハーベスとしては通常のリスニングにはこのネットは装着した状態で聴くことを薦めているようで、外すことが容易な作り方ではなく、しっかりと密着させている。このネットは、音を阻害するというよりもむしろユニット周辺での音の反射を合理的に吸収しようというもので、付けた状態のほうが音のバランスが良くなる、という考え方に基づいている。実際の試聴の結果でもそう感じた。

さて、Monitor 30のサウンドだが、音像感、定位感が非常に優れている。音全体のバランスは、7ESが若干高域と低域を強めていたのに対して、本機はどこまでもフラットな印象で、強調感を一切持たせない。これを味気なさとして解釈するか、より忠実と解釈するのだが、ボクとしては後者で納得している。元来、ハーベ

スそのものが、色付けを抑え自然感を意識する音作りをしてきているが、Monitor30ではそのことを強く感じさせられる。

ルネ・マリーの無伴奏の部分では、2本のスピーカーの中央にありながらモノラルとは違う、窮屈さのない空間性を感じさせ、声には力があるため歌唱力をより見事に表現している。グラディ・テイトに関してもまったく同様な印象である。低域から高域までの音の統一感が見事で、『ブラック・ダリア』のドラマティックなアルバムの1曲1曲が味わい深い。

3機種の試聴を終了したところで新しい情報が飛び込んできた。3月末か4月にもう1機種、Super HL5という3ウェイ3スピーカー・システムが登場するという。価格は1本20万円前後で、Monitor 30と近い価格帯のようだが、こちらは仕上げもチェリーで、20cmカスタムRADIALコンボジットコーンのウーハーは共通だが、高域がアルミハードドーム、さらにスーパーツイーターとしてチタンを使った20mmドーム型でネオジウム磁気回路を用いたものが加わっている。SACDなどソース側の高域特性にも対応しようというもののようである。サイズも7ES-2より一回り大きなものになるといふ。大いに期待が膨らむ情報である。

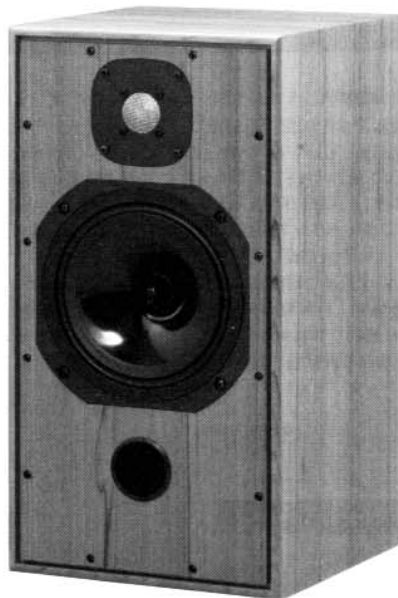
N E W S

ハーベスからこの春登場予定のニューモデル

HL Compact 7ES-2

¥290,000(ペア)

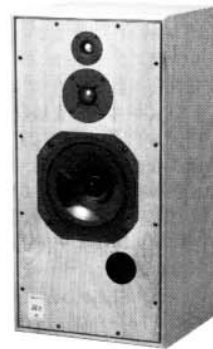
●型式:2ウェイ2スピーカー・バスレフ型、使用ユニット:20cmコーン型ウーハー(RADIAL重合コンボジット・コーン)、2.5cmドーム型ツイーター(フェロケルド・アルミニウム・ハードドーム)、周波数特性:48Hz~20kHz ±3dB、クロスオーバー周波数:3kHz(18dB/oct.)、出力音圧レベル:86dB/W/m、インピーダンス:8Ω、最大入力:150W、推奨アンプ出力:25~150W、外形寸法:271×520×315(WHD)mm、質量:12.5kg



Super HL5

¥418,000(2本)

●型式:3ウェイ・バスレフ型、使用ユニット:20cmコーン型ウーハー(RADIAL重合コンボジット・コーン)、2.5cmドーム型ツイーター(フェロケルド・アルミニウム・ハードドーム)、2.0cmドーム型スーパーツイーター(チタニウム・ハードドーム)、周波数特性:40Hz~24kHz ±3dB、クロスオーバー周波数:3.5kHz,10kHz、出力音圧レベル:86dB/W/m、インピーダンス:8Ω、外形寸法:323×635×305(WHD)mm、質量:16.8kg



1988年に発売された人気モデルHL5をベースに、同社最新技術投入し大幅なリファインメントを施したSuper HL5が、この春発売される。同社としては初めてスーパーツイーターを搭載、ウーハーなど各ユニットも最新設計品を採用、またクロスオーバー回路も入念な設計が施され、SACDなどソースの高音質化に対応した全く新しいモデルに生まれ変わっている。キャビネットは、薄い木材にて素材の響きを活かし、同社伝統の構造で、容積は50リットル、温かく豊かな低域再生を追求している。